

令和3年度 第4四半期（2022年1月～3月）景況動向調査結果

十和田商工会議所 中小企業相談所

1. 調査対象

(1)対象企業数 十和田商工会議所会員 25 事業所

内訳:建設業、製造業、卸売業、小売業、サービス業 各 5 事業所

(2)回答企業数 有効回答=25 事業所(回答率 100%)

2. 調査対象期間

今期=2022 年 1 月～3 月

- ・前年同月比=前年同期(2021 年 1 月～3 月)と比べた今期の状況
- ・前期比=前期(2021 年 10 月～12 月)と比べた今期の状況
- ・先行き見通し=今期と比べた来期(2022 年 4 月～6 月)の見通し

3. 調査期間 2022 年 3 月 15 日～3 月 25 日

4. 表示方法

本報告書中の「DI」とは、「ディフュージョン・インデックス、景気指数」の略で、各項目について、「上昇・増加」と回答した企業の割合から「下降・減少」と回答した企業の割合を引いた数値である。

DI値が 0 より上の場合=景気は上向き

DI値が 0 の場合 =景気は横ばい

DI値が 0 より下の場合=景気は下向き

5. 調査項目ごとの状況

(1) 業況DI

業況DIの現況判断は▲43.9 で、業種別にみると「小売業」が▲20.0 で最も高く、「製造業」が▲39.8 で続いている。

先行きは4.0p改善の▲39.9 で、業種別では「卸売業」「サービス業」で改善、「小売業」で悪化となっている。

図表1 業況DI

	2021 年 10～12 月期 (前回調査)	前期比	2022 年 1～3 月期 (今回調査)	前期比	2022 年 4～6 月期 (先行き)	今期比
全産業	▲40.0	↗	▲43.9	↘	▲39.9	↗
建設業	▲60.0	↘	▲40.0	↗	▲40.0	→
製造業	▲40.0	↗	▲39.8	↗	▲39.8	→
卸売業	▲60.0	→	▲59.8	↗	▲40.0	↗
小売業	▲19.8	↗	▲20.0	↘	▲39.8	↘
サービス業	▲20.0	↗	▲60.0	↘	▲40.0	↗
(参考)全国全産業	▲15.8	↗	▲32.7	↘	▲28.8	↗
(参考)東北全産業	▲28.9	↗	▲42.8	↘	▲34.8	↗

※（参考）は日本商工会議所 L O B O 調査の値を参照

DI = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)



（２）売上高ＤＩ

売上高DIの現況判断は▲55.9 で、業種別にみると「小売業」が▲20.0 で最も高く、「製造業」が▲39.8 で続いている。

先行きは 12.0p 改善の▲43.9 で、「建設業」「卸売業」「サービス業」で改善、「小売業」で悪化となっている。

図表２ 売上高ＤＩ

	2021 年 10～12 月期 (前回調査)		2022 年 1～3 月期 (今回調査)		2022 年 4～6 月期 (先行き)	
		前期比		前期比		今期比
全産業	▲52.0	↗	▲55.9	↘	▲43.9	↗
建設業	▲80.0	↘	▲80.0	→	▲60.0	↗
製造業	▲40.0	↗	▲39.8	↗	▲39.8	→
卸売業	▲60.0	→	▲59.8	↗	▲40.0	↗
小売業	▲39.8	↗	▲20.0	↗	▲39.6	↘
サービス業	▲40.0	↘	▲80.0	↘	▲40.0	↗
(参考)全国全産業	▲8.2	↗	▲23.2	↘	▲19.2	↗

※（参考）は日本商工会議所ＬＯＢＯ調査の値を参照

DI = （増加の回答割合）－（減少の回答割合）

（３）採算ＤＩ

採算DIの現況判断は▲40.0 で、業種別にみると「建設業」「小売業」が▲20.0 で最も高く、「卸売業」が▲39.8 で続いている。

先行きは 0.1p 改善の▲39.9 で、「製造業」「卸売業」「サービス業」で改善、「小売業」で悪化となっている。

図表３ 採算ＤＩ

	2021 年 10～12 月期 (前回調査)		2022 年 1～3 月期 (今回調査)		2022 年 4～6 月期 (先行き)	
		前期比		前期比		今期比
全産業	▲28.0	↗	▲40.0	↘	▲39.9	↗
建設業	▲20.0	→	▲20.0	→	▲20.0	→
製造業	▲40.0	↗	▲40.0	→	▲39.8	↗
卸売業	▲20.0	↗	▲39.8	↘	▲20.0	↗
小売業	▲19.8	↗	▲20.0	↘	▲59.8	↘
サービス業	▲40.0	↘	▲80.0	↘	▲60.0	↗
(参考)全国全産業	▲19.5	↗	▲34.7	↘	▲32.0	↗

※（参考）は日本商工会議所ＬＯＢＯ調査の値を参照

DI = （好転の回答割合）－（悪化の回答割合）

（４）資金繰りＤＩ

資金繰りDIの現況判断は▲12.0 で、業種別にみると「建設業」「小売業」「サービス業」が0.0 で最も高く、「卸売業」が▲20.0 で続いている。

先行きは4.0p 悪化の▲12.0で、「製造業」で改善、「建設業」「小売業」で悪化となっている。

図表４ 資金繰りＤＩ

	2021 年 10～12 月期 (前回調査)		2022 年 1～3 月期 (今回調査)		2022 年 4～6 月期 (先行き)	
		前期比		前期比		今期比
全産業	▲12.0	↗	▲12.0	→	▲16.0	↘
建設業	0.0	↗	0.0	→	▲20.0	↘
製造業	▲20.0	↗	▲40.0	↘	▲19.8	↗
卸売業	▲20.0	↘	▲20.0	→	▲20.0	→
小売業	0.0	↗	0.0	→	▲20.0	↘
サービス業	▲20.0	→	0.0	↗	0.0	→
(参考)全国全産業	▲14.6	↗	▲20.7	↘	▲20.8	↘

※（参考）は日本商工会議所ＬＯＢＯ調査の値を参照

ＤＩ＝（好転の回答割合）－（悪化の回答割合）

（５）仕入単価ＤＩ

資金繰りDIの現況判断は▲64.0 で、業種別にみると「建設業」「製造業」「小売業」「サービス業」が▲60.0 で最も高く、「卸売業」が▲80.0 で続いている。

先行きは12.0p 悪化の▲76.0 で、「建設業」「製造業」で悪化、その他の業種で横ばいとなっている。

図表５ 仕入単価ＤＩ

	2021 年 10～12 月期 (前回調査)		2022 年 1～3 月期 (今回調査)		2022 年 4～6 月期 (先行き)	
		前期比		前期比		今期比
全産業	▲52.0	↘	▲64.0	↘	▲76.0	↘
建設業	▲40.0	→	▲60.0	↘	▲80.0	↘
製造業	▲40.0	↘	▲60.0	↘	▲100.0	↘
卸売業	▲80.0	→	▲80.0	→	▲80.0	→
小売業	▲60.0	↘	▲60.0	↘	▲60.0	→
サービス業	▲40.0	→	▲60.0	↘	▲60.0	→
(参考)全国全産業	▲57.3	↘	▲65.3	↘	▲66.1	↘

※（参考）は日本商工会議所ＬＯＢＯ調査の値を参照

ＤＩ＝（下落の回答割合）－（上昇の回答割合）

（６）従業員ＤＩ

従業員DIの現況判断は▲3.7 で、「卸売業」で過剰、その他の業種でやや不足となっている。

先行きは 3.9p 改善の 0.2 で、「卸売業」で改善、その他の業種でほぼ横ばいとなっている。

図表 6 従業員 D I

	2021 年 10～12 月期 (前回調査)		2022 年 1～3 月期 (今回調査)		2022 年 4～6 月期 (先行き)	
		前期比		前期比		今期比
全産業	0.3	↗	▲3.7	↘	0.2	↗
建設業	0.6	↗	0.2	↘	0.2	→
製造業	0.0	↗	0.0	→	0.0	→
卸売業	0.2	↗	▲19.6	↘	0.4	↗
小売業	0.2	↘	0.2	→	0.2	→
サービス業	0.6	→	0.6	→	0.4	↘
(参考)全国全産業	17.7	↗	16.6	↘	17.9	↗

※（参考）は日本商工会議所 L O B O 調査の値を参照

D I = （不足の回答割合）－（過剰の回答割合）

6. 業況感等に関する自由記述

コメント	業種
木材、住宅設備（ボイラー等）の価格上昇及び納期の遅延等による影響が今後続く予測される。	建設業
技術者不足のため、工事施工件数が増やせない。	建設業
・仕入単価の上昇（燃料など含む） ・価格競争及び短納期指定による外注費増（人員増対応） 仕事を受注しても時間外労働の制限内では対応できず、外注にて対応しているが、利益の減少が問題と考えている。従業員の増員は、今後の景気回復が見込めないため、今の従業員の生活を守るのが優先のため増員は難しい。ホワイト企業を目指し行動するとブラック企業が勝つ仕組みをどうするかが課題。今の時代は、ホワイト→高い・低利益、ブラックの方がクライアントから喜ばれる傾向にあるのが変わってくれればうれしい。	製造業
現況とすればコロナ感染の影響による仕事量の減少が大きい、感染者の減少が続けば行事やイベントなど実施され、回復が見込める。また原油高の影響によるメーカーからの仕入れ価格がすでに値上がりしているものや、値上げ交渉中のものもある。これを売上価格に転嫁できるかはこれから。	製造業

市内及び観光地の落ち込みにより売上減となっている。G. W. のイベントに期待したい。	卸売業
新車納入遅れ（3～10 か月）	小売業
4 月から人材確保ができる見込みのため、やっと売上増加のための動きができそうである。このコロナ禍でも生き残れるよう頑張っていくしかない。	サービス業